

## 第1学年4組 生活科学学習指導案

令和6年9月20日（金）第5校時

在籍児童数 32名

場所 晴天時：校庭 雨天時：ピロティ

指導者 教諭 朝見 史子

1 単元名「なつが やってきた」（9時間） 第1学年 学習指導要領の内容(4)(5)(6)

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、1学期に学校や通学路の探検を通して、学校生活を支えている人々と自分との関わりを見付け、楽しく安全に生活することを学んできた。また、アサガオを栽培する活動を通して、成長の様子に関心をもち、水やりを欠かさずに行うなど花を咲かせたいという思いをもって大切に育ててきた。

砂場での造形遊びでは、砂山を作り、トンネルを掘るなど、友達が加わることで協力したり競い合ったりした。遊びが次々と発展していくことで、自分の思いや願いを実現し、満足感を得て、友達との関係をつくり出す姿が見られた。一方で友達のよさや自分との違いを考えたり、相手の意見を尊重したりすることに課題がある児童もいる。自分と友達などとのつながりを大切にし、遊びを創り出すことなどから、毎日の生活を充実していくための資質や能力を高めていきたい。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものをつくったりして、自然の様子に気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることをねらいとしている。

単元計画を作成するにあたり、体験活動と表現活動とが行きつ戻りつし、それを繰り返すことで気付きの質を高めていけるよう配慮した。活動や体験を行っていく中で感じ、考えたことを適切なタイミングで伝え合ったり振り返ったりしながら表現していく過程にしていくことが、主体的で対話的な深い学びの実現につながっていくと考える。

教師と児童の関わり方は昨年度までの研究を踏襲する。「ファシリテーション表」を学年で共有し、活用する。そして、児童の主体的な思考を促し、主体的に表現できる児童の育成を目指す。

(3) 児童の意識の流れ

単元 (時数)	児童の意識	ねらいに迫る手立て
<p>1 校庭や公園で夏を探そう (3)</p>	<p>木のところに虫がいたよ。 日陰は涼しいね。 オオバコ相撲がしたい。 きれいな花が咲いていたよ。</p>	<p>目的意識なく走り回っている児童には、教師が見つけたものを教え、一緒に見る。目的に合ったよい気付きや活動を称賛し、周りに広める。</p>
<p>2 水で遊ぼう (4)</p> <p>水を使って遊び、次時の遊びに必要な物を考える。(1)</p>	<p>暑い日は、水遊びをすると冷たくて気持ちがいい。 みんなで遊ぶと楽しい。 どんな材料を使ったらいいかな。</p>	<p>自分の遊びだけでなく、友達の遊びにも関心がもてるようにする。</p>
<p>↓</p> <p>新しい遊び方を考えたり、改良したりする。(1)</p>	<p>まねしてみたい。 なぜ、水が遠くまで飛ばないのかな。</p>	<p>活動の様子を写真で見せ、振り返りをしやすくする。</p>
<p>↓</p> <p>自分達や他のグループの新しい遊び方を楽しむ。(1)</p>	<p>どうすればもっと楽しくなるかな。 何を付け足せばいいかな。 ルールをもっと簡単にしたほうがいいかも。 もっと～するとうまくいきそうだよ。</p>	<p>自分の遊びのよさや楽しさだけでなく、うまくいかないで悩んでいるところを友達に相談してよいことを伝える。</p>
<p>↓</p> <p>楽しかった遊びや水遊びで工夫したことを振り返る。(1)</p>	<p>他のグループのアイデアもいいね。 前より楽しくなって嬉しい。 水が遠くまでとんだコツをみんなに伝えたいな。</p>	<p>自己の成長も振り返りの視点とし、頑張ったことや、できるようになったことに気付かせ、達成感や手応えを感じさせる。</p>
<p>↓</p> <p>3 夏のことを伝えよう。(2)</p>	<p>バッタの捕まえ方を紹介したい。 水を当てる的を工夫したことで、もっと楽しく遊べたよ。 みんなのおすすめの夏も知りたいな。</p>	

### 3 研究主題との関わり

#### (1) 研究主題

令和4・5・6年度 新座市教育委員会委嘱研究

## 主体的に思考し、表現する児童の育成を目指して

#### (2) 研究の仮説

- ①「やってみたい」「こうしてみたい」と思えるような単元構成をすることで、主体的に思考できるだろう。
- ②気づきを通して得た思いを、多様な経験に触れることで、主体的に表現できるだろう。

#### (3) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

##### ①指導と評価の一体化

具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法を計画し、評価規準における「具体的な児童の姿」を想定する。自分の思いや考えを文章で表現することがまだ難しい時期なので、振り返り表を用いることで個々の学びを見取ることができるように工夫し、指導の改善に役立てるようにする。

##### ②思考を促すファシリテーションによる教師の意図的な言葉かけ

児童が活動に向かう時の言葉かけとして「どうすればもっと友達と楽しめるかな?」「似たような遊びをしている子があそこにいるよ」「どうやったらできたの?もう一度やってみて」など、気づきの質を高める教師の言葉かけを工夫する。

##### ③直接体験を重視した学習環境の設定

低学年の児童は、活動と思考が一体的であり、抽象的な思考よりも具体的な活動や体験の中で感じたことを基に思考を深めていく傾向がある。こうしたことから、物的、空間的配慮、主体的な活動の広がりや深まりを可能にする十分な場所、試行錯誤したり繰り返したりする時間の確保など、学習環境の設定に配慮する。

### 4 単元の目標

夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものをつくったりして、自然の様子に気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

### 5 単元の評価規準と小単元における具体の評価規準（6月～9月 9時間）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	夏の自然を見付けたり、遊んだりする活動を通して、夏の自然の様子や、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	夏の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、夏とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	夏の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。

小単元における評価規準	1	①動植物や風、光など、夏の自然の様子や、公園はいろいろな人が使う場所であることに気付いている。	①諸感覚を生かしながら、身近な自然との触れ合いを楽しんでいる。	①安全に気を付けながら正しく公園を利用しようとしている
	2	②夏の自然の様子や、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	②これまでの経験を生かしながら、どのように遊ぶのか考え、活動の見通しを立てている。 ③遊びに使う物を動かしながら、遊び方を考えようとしている。 <b>本時</b>	②遊びを楽しみたいという願いをもち、粘り強く遊びを試そうとしている。
	3	③道具や用具の準備や片付け、掃除や整理整頓をしている。		③夏の自然を生かして自分たちで遊びを創り出す楽しさを実感し、これからも身近な自然で楽しく遊ぼうとしている。

6 指導と評価の計画

小単元名	○主な学習活動 <b>指導上の留意点</b>	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
なつが やってきた	<p>〈単元の目標〉 夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものをつくったりして、自然の様子に気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりすることができるようにする。</p>		
1 校庭や公園で夏を探そう。(3)	<p>○校庭や教育林で虫探しや草遊びをして遊ぶ。(1)</p> <p>○夏の公園で遊ぶ。(1)</p> <p>○公園や校庭での活動で気付いたことや楽しかったことを振り返る。(1)</p>	<p><b>態度</b>①</p> <p><b>思・判・表</b>①</p> <p><b>知・技</b>①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けながら正しく公園を利用しようとしている。(つぶやき・発言・行動)</li> <li>・諸感覚を生かしながら、身近な自然との触れ合いを楽しんでいる。(つぶやき・発言・行動)</li> <li>・動植物や風、光など、夏の自然の様子や、公園はいろいろな人が使う場所であることに気付いている。(発言・ワークシート)</li> </ul>
2 水で遊ぼう。(4)	<p>○水を使って遊び、次時の遊びに必要な物を考える。(1)</p>	<p><b>思・判・表</b>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験を生かしながら、どのように遊ぶのか考え、活動の見通しを立てている。(つぶやき・発言・行動・振り返り表)</li> </ul>

<p>3 夏のこ とを伝 えよう。 (2)</p>	<p>○前時の遊びを改良したり、 新しい遊び方を考えたり する。(1) <b>本時</b></p> <p>○自分達や他のグループの 新しい遊び方を楽しむ。 (1)</p> <p>○楽しかった遊びや水遊び で工夫したことを振り返 る。(1)</p> <p>○夏の様子や楽しかった遊 び、遊びで工夫したことを 友達と伝え合う。(2)</p>	<p><b>思・判・表</b>③</p> <p><b>態度</b>②</p> <p><b>知・技</b>②</p> <p><b>知・技</b>③</p> <p><b>態度</b>③</p>	<p>・遊びに使う物を動かしながら、遊び 方を考えようとしている。(つぶや き・発言・行動・振り返り表)</p> <p>・遊びを楽しみたいという願いをも ち、粘り強く遊びを試そうとして いる。(つぶやき・発言・行動)</p> <p>・夏の自然の様子や、それを利用し た遊びの面白さに気付いている。 (発言・ワークシート)</p> <p>・道具や用具の準備や片付けをして いる。(毎時間、活動中の行動観察 での見取り)</p> <p>・夏の自然を生かして自分たちで遊 びを創り出す楽しさを実感し、こ れからも身近な自然で楽しく遊ば うとしている。(つぶやき・ワーク シート・発表)</p>
---------------------------------------	--	--	---

## 7 本時の学習指導

### (1) 目標

友達といっしょにもっと楽しむために、比べたり試行錯誤したりしながら、前時の遊びを改良したり、新しい遊び方を考えたりできるようにする。

### (2) 本時でねらう児童の姿（おおむね満足できる児童（B）の具体的な姿）

○前時の遊びを生かしながら、遊び方を考えようとしている。

○自己の思いや願いをもって、遊び方を考えようとしている。

○友達と遊び方を比べたり、試したり、繰り返したりして、より楽しめる遊び方を考えようとして  
いる。

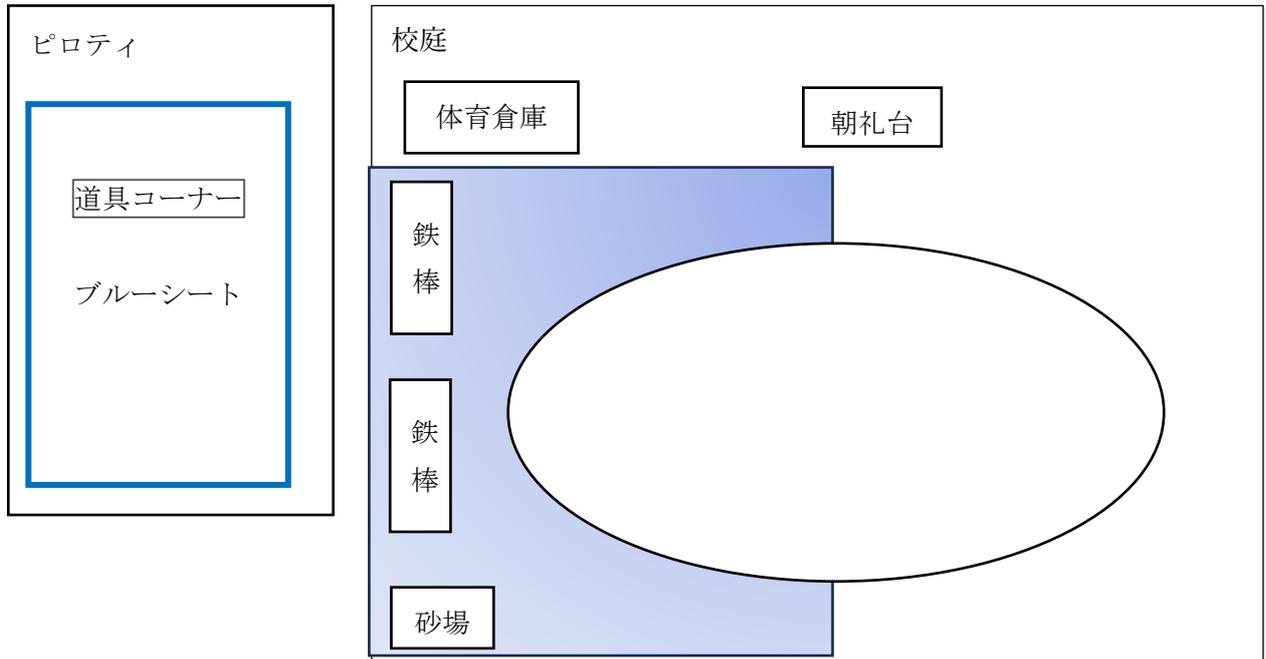
### (3) 展開

児童の活動・意識	評価(●)と支援(○) 研究主題との関わり(☆)	時間
<p>1 前時に工夫して遊んでいた様子の写真を見る。</p> <p>・地面にお絵描き、楽しかったよね。 ・強く押したら、遠くまで飛んだよ。 ・噴水のように高く飛ばしたよ。</p>	<p>○前時の様子の写真を見せることで、もっと こうしたい、もっと遊びたいという思いを 高める。</p>	1分
<p>2 本時のねらいを共有する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">新しい遊び方を考えて、もっと遊びを楽しみましょう。</p>	<p>○「どうしたらもっと楽しくなるか。」という ねらいで遊ぶことを明確にする。</p>	1分

<p>3 遊び方を広げるアイテムを見て、イメージを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水を入れたペットボトルを置くと、ボーリングみたいになる。</li> <li>・紙に点数を書いて当てるのはどうかな。</li> <li>・射的みたいに容器が倒れるようにしたい。</li> <li>・的をひもでつるしてみたら、もっと楽しそうだよ。</li> <li>・バケツに水をためていくゲームはどう？</li> </ul> <p>4 遊び方を比べたり、試したり、繰り返したりして、前時の遊びを改良したり、新しい遊び方を考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで遊ぶと楽しい！</li> <li>・～さんのをまねしてみたいな。</li> <li>・どうすれば水が遠くまで飛ぶのかな。</li> <li>・この道具をつかうと、うまくいきそうだよ。</li> </ul>	<p>○活動前に教師が用意したものを使って、遊び方のイメージを共有化させることで、遊びを創り出すことができるようにする。</p> <p>○人に向かって水をかけない、水分補給に留意させる、集合場所を日陰に設定するなど、健康面や安全面に配慮する。</p> <p>☆物的、空間的配慮、主体的な活動の広がりや深まりを可能にする十分な場所、試行錯誤したり繰り返したりする時間の確保など学習環境の設定に配慮する。</p> <p>●遊びに使う物を動かしながら、遊び方を考えようとしている。【思・判・表③】 (つぶやき・発言・行動・振り返り表)</p>	<p>5分</p> <p>30分</p>
<p>△努力を要すると判断される状況(C)の児童への手立て</p> <p>☆遊びに参加できていない児童がいた場合、思考を促す意識的な声かけを行う。</p> <p>※ファシリテーション表を参照</p> <p>◎十分満足できると判断される児童(A)の具体的な姿 進んで友達に声をかけ、伝え合いながら遊び方を考えている。</p>		
	<p>☆自分の思いや考えを文章で表現することがまだ難しい時期なので、振り返り表(別時間、教室で)を用いることで個々の学びを見取ることができるように工夫し、指導の改善に役立てるようにする。</p>	
<p>5 本時の学びを振り返り、次の活動への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・的を置く場所をもっと近づけたら、当たるようになりました。</li> <li>・〇〇さんが、倒れにくい作り方を教えてくれたのでうれしかったです。</li> </ul>	<p>○前の遊びと比べて、工夫ができた点を振り返らせ、よりよいものにしようとしたことを称賛する。</p> <p>○次の活動へ生きる自己評価、他者に認められたことで意欲や自信につながる振り返りをさせる。</p>	<p>2分</p>
<p>6 次時の見通しをもつ。</p> <p>7 後片付けをする。</p>	<p>○安全に気を付けて片付けるよう、助言する。</p>	<p>1分</p> <p>5分</p>

(3) 活動場所

新しい遊び方を考えて、もっと遊びを楽しみましょう。



(4) 準備物

教師

ホワイトボード、ブルーシート、バケツ、たらい、カラーコーン、マーカー、フラフープ、スズランテープ、画用紙、マジック、ガムテープ、セロテープ、クリップ、牛乳パック、たまごパックなどの空き容器

児童

帽子、水筒、体育着、タオル、ペットボトル・マヨネーズ等の空き容器

8 ファシリテーション表

ファシリテーション表 (生活科)							
場面/ステータス	自然	公共	地域	実生活	季節	安全	成長
1 気づきが浅い時	・これはこの後どうなると思う？ ・他の人が気付いてないことがあったら教えて。	・何のためにあるのかな？ ・どうして～なのかな？	・だれが〇〇しているのかな ・何のためにあるのかな？	・お家ではどうかな？	・他の季節とどんな違いがあるかな？	・何のためにあるかな？	・小さい頃はどうかだった？
2 見つけられない時	・もっとよく見てごらん ・触ったり匂いをかいだりしてみよう	・みんながいつも使っている所のことを考えよう。	・前に見つけた〇〇はどうかだった？	・家族の人はどうかかな？	・前の季節はどんなものを見つけた？	・通学路で何か気になったものはあった？	・一年生の時と比べて出来るようになったことはある？
3 比べさせたい時	・前に観察したときと比べて違うところは？	・〇〇と△△の場所で見ている所や違う所はあったかな？	・前に見つけた〇〇と比べてどうかだった？	・家と学校では、どう違うかな？ ・小学生になる前と比べてどうかかな？	・前に観察したときと比べて違うところは？	・〇〇と△△の地域で違う所や似ている所はあったかな？	・〇〇の時と比べてみると、変わったかな。
4 たとえるのが難しい時	・似たようなことなかった？	・例えば〇〇はどうかかな？	・例えば、お家や学校ではどうかかな？	・学校での生活で例えてみよう	・例えば植物や動物ではどうかかな？	・学校のルールに例えらるとどんなルールに似ているかな？	・〇〇が口口になったくらい変わった？〇〇が△△になったくらい変わった？(具体例を挙げる)
5 試させたい時	・やってみると、どうなりそう？	・実際にどうなっているか見たり聞いたりしてみるともっとよく分かるかもしれないよ	・実際にその場所に行ってみたらどうだろう？	・明日からみんなやってみたらどうだろう？	・外に行ったら本物を観察してみたらもっとよく分かるかもしれないよ	・実際にどうなっているか見たり聞いたりしてみるともっとよく分かるかもしれないよ	・出来ることをみんなに発表してみたら？
6 見通しを持たせたい時	・リレーション ・この後どのように変化しそうですか？	・もしも〇〇してしまったら周りの人はどう思うかな？	・これから自分たちはどのように地域と関わっていきたいかな？	・自分の生活に生かしてみたいことを考えてみよう。	・季節が変わるとどうなりそうかな？	・もしも〇〇してしまったらどうなるのかな？どうしたら安全にやらせようかな？	・どのような自分になりたいかな？次の学年でやりたい姿を想像してみよう。

## 【本時のファシリテーション】

### (1) 自分の遊びに充実感をもっている様子するとき

「どうやったら できたの？」 「もう一度やってみて」

「〇〇さんにも 伝えてみて」 「これから どうしたい？」

### (2) 自分の遊びがうまくいかない様子するとき

「やってみたいことを 教えて」 「どうなったら いいと思う？」

「〇〇さんも同じような遊びをしていたよ。やり方を 聞いてみてごらん」

「道具コーナーを 見に行ってみよう」 「じゃあ、〇〇を使ってやってみようよ」

「ルールを変えてみたら？」

## 9 成果 (○) と課題 (●)

○本時でねらう児童の姿が具体的に挙げられており、丁寧なファシリテーション表が効果的だった。

○すぐに試すことのできる学習環境の設定が、主体的な思考につながっていた。

○グループを作らず、児童の意識の流れで自然とグループ化されたり、一人で考えたりする姿が見られ、主体的に思考しているといえる。

○たくさん材料があることで、多様な遊びに繋がっていた。

●授業内でふり返りが書けず、発表によるふり返りのみだった。児童の実態に合わせて、ふり返りを録音で撮ったり、動画に残したりする方法もある。

●児童のつぶやきを拾うファシリテーションは、主体的な思考につながっていたが、教師が1人しかない場面では難しい。

●うまく遊びを発展させているグループだけでなく、うまく遊びを発展させられていないグループを拾って、他の児童に思考させる場面があると、より主体的に思考する児童の姿につながった。